



祝 辞

北海道開発局長

本 田 幸 一

※掲載の肩書は記念大会(平成 28 年 6 月 8 日)当時のもの。

本日ここに、公益社団法人日本技術士会北海道本部創立 50 周年記念式典が、多くの関係各位の御臨席のもと、盛大に開催されますことに、心からお慶び申し上げます。

貴本部は、昭和 41 年に日本技術士会北海道支部として創立されて以来、北海道における科学技術の進歩向上と産業経済の発展に多大な貢献をされました。あらためて、歴代本部長をはじめ役員の方々、並びに会員各位のご尽力に対し、深く敬意を表する次第であります。

北海道における社会資本整備は、昭和 30 年代に本格化し、住民生活の安定と経済の自立的発展のために、主要河川における治水対策や国道の舗装・改築、空港・港湾の整備、農用地の開発が総合的に進められてきました。その後は、産業構造の高度化、国際化など時代の要請に即した基盤整備が行われ、北海道開発は世界でも例を見ないほどの大きな成果をあげました。

このような発展を支えてきたのは、積雪寒冷の厳しい気象や土壌・地理的条件等を克服するための数多くの技術開発であり、そこに技術士の皆様のあくなき科学技術への探求と、幾多の苦難を乗り越えながら培われた高い技術が大きく寄与したことは言うまでもありません。

ご存じのとおり、今年 3 月に 8 期目となる新たな「北海道総合開発計画」が閣議決定され、国の課題解決に向けた北海道の将来像がまとめられました。北海道開発局では、北海道の強みである食や観光関連分野等における成長・活性化の流れを伸ばすとともに、北海道全体に波及させるために、国際競争力の強化等に資するストック効果の高い生産基盤、物流・人流基盤、生活基盤等の社会基盤整備を進めているところであります。

こうした取り組みを着実に実施するためには、貴協会並びに会員各位のご支援とご協力が不可欠であり、すべての技術者が知恵を出し合い、一体となって進めていくことが重要です。

貴協会におかれましては、産学官の連携による科学技術の向上や普及の取り組み、防災における技術支援、各技術分野が連携した事業推進など、道内各地において幅広い活動が行われております。

引き続き、北海道の特徴ある資源を更なる発展・成長に結びつけるために、今後の活動にご期待申し上げるとともに、北海道開発局と致しまして、皆様と連携・協力しながら取り組んでいく所存であります。

最後に、日本技術士会北海道本部の益々の御発展と、併せて会員の皆様、そして本日御臨席の皆様の御健勝を心より御祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

平成 28 年 6 月 8 日